

地理教育へ赤水の動画

産学官協議会イベント

半生や業績、3本配信

地理空間情報に関わる最先端技術を紹介するオンラインイベント内で、高萩市出身の学者、長久保赤水（1717～1801年）の半生や業績が、動画とともに紹介されている。2022年4月から高校で「地理総合」が必修となることを踏まえ、赤水が作成した地図が生徒の地理教育に役立つといった観点でまとめられている。

イベント「G空間エキスポ」付けられた「G空間（地理空間）（赤水図）を完成させた。地図や衛星測位などから「間」情報への理解を深めることを狙い、産学官による協議会が開催。新型コロナウイルスの影響で昨年からオンラインで開催し、各機関が動画を配信している。26日まで。

赤水は日本学問や地図作成に対する赤水の情熱を、時代劇を通して伝える同市製作の映像作品のほか、赤水図を地理教育へ実用的に活用する方法について日本地図学会と長久保赤水顕彰会が共同で作った動画など3本を掲示した。

両会と同市教育委員会は、赤水図を5倍に拡大した地図を地理教育に活用することを提言している。同顕彰会は「プログラムには、拡大した江戸時代の地図に生徒が触れて現代地図と比較し、発見をするといった体験的な地理教育へのヒントが込められている」としている。

赤水図を活用した地理教育について説明する日本地図学会常任委員長の前田勝彦、日大教授（長久保赤水顕彰会）と同学会が共同で作成した動画から

高萩市歴史民俗資料館1階



この地図の中に、社会科教育ですとか、地理教育の題材がいっぱい詰まっていますので